シリーズ多面的機能支払　熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

Vol.10　飛鳥本郷農業保全会（熊野市飛鳥）の軌跡

あすかほんごうのうぎょうほぜんかい

多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

―美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく―

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。

本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。

今回は、熊野市飛鳥地区で多岐にわたり様々な取り組みを行っている「飛鳥本郷農業保全会」を紹介する。

多くの人々と「むすび」の縁をつなぐ
飛鳥で育む生きる力

8月下旬、副代表の荒谷さんが取材に先立ち、稲刈り作業を行うということで、見学させてもらった。

じりじりと肌をさすような太陽の下、元気な声が聞こえてきた。飛鳥神社の裏の田んぼには10人ほどの比較的若い人たちが機械と手作業で効率よく作業を進めていた。

今回のインタビューの取材場所は、荒谷さんが活動している「飛鳥むすびの里」の拠点となる宿泊施設だ。飛鳥本郷農業保全会　代表の福山さんとともにお話を伺った。

――組織について教えてください。

福山―今年で設立して4年目です。メンバーは約14人ですが、地元農家だけでなく移住者や地区外といった非農家・地権者等も協力しながら一緒に活動しています。

荒谷―私も移住者の1人です。関東で勤め上げた後、縁があって飛鳥地区に移住し、「飛鳥むすびの里」を立ち上げました。

「飛鳥むすびの里」での活動と併せて、多面の活動にも取り組み、飛鳥地区の景観維持に努めています。

――「飛鳥むすびの里」では、どのような活動をしているのですか。

荒谷―設立して今年で6年目となります。熊野の自然の中で自立し、仲間とともに日常経験の中で生きる力を鍛えるために、農業・学業・武道の3要素の活動を行っています。

特に農業においては、田舎に住んで農業（稲作等）をしたい移住希望の方（Iターン・Uターン等）が、農業を体験できるような事業を組んでいます。そのため、若い方も結構体験しに来ています。体験をした後、実際に移住をしている人は5人ほどいます。

福山―荒谷さんが活動を始めてから、飛鳥地区に県外の人がたくさん訪れるようになり、びっくりしています。そして、飛鳥地区を知ってくれて、とても嬉しいです。

【飛鳥神社の市指定天然記念物（四本杉）】

――農業を通じた交流が進んでいて活気がありますね。

福山―今、飛鳥地区や隣の地区などを含めて移住者が少しずつ増えてきています。

移住者の方が一緒に活動できる雰囲気なので、とても嬉しいです。

荒谷―移住者だけでなく、「飛鳥むすびの里」に賛同している県外の仲間にも活動に参加してもらっています。皆で一気に活動をしますので、とても効率よく作業ができます。

また、飛鳥地区で田んぼをしたいという移住希望の方が、よく田んぼを見に来たりします。そのような思いの方に来ていただくからには、綺麗な田園風景を見ていただき、ここで農業をしたいとさらに思ってもらいたいので、多面の活動の励みになっています。

【熊野市飛鳥地区の田園風景】

――不整形な田んぼを維持するのは大変ですよね。

福山―飛鳥地区は、耕地整理していない地区なので、田の形が様々です。形がばらばらであれば農業をするのも大変なため、休耕田が最大で15～16枚ほどありました。

この休耕田は放っておくことはできず、綺麗な景観を維持していかなければならないと思い、多面を活用し活動し始めました。

荒谷―移住希望の方は、耕地整理をしていない昔ながらの田んぼを結構好みます。自分たちで食べる分だけ作りたいという人はそのような田んぼのほうが良いのかもしれませんね。

――今後の目標を教えてください。

福山―今までの交流を通じて、飛鳥地区で暮らしたい、守りたいという人が増えることです。地元は高齢化が進んでおり、地元の農家だけでは飛鳥の田園風景を守ることは困難です。荒谷さんたちの力に頼りつつ、一緒になって飛鳥地区を守っていきたいと思います。

荒谷―最終目標は、飛鳥地区が活性化していた頃の集落に戻すことです。

そのためには、まず休耕田を元の状態に戻し、今維持している田んぼを守りながら、生産基盤をしっかりとしていくことが必要と考えています。そして、空き家が無くなり、子どもたちの元気な声が聞こえ、現在廃校している学校を改めて再開すればいいなと考えています。

目標達成のための始めの取っ掛かりとして、農業から復活させていきたいです。

私以外の移住者も含めですが、水田だけでなく畑等新しい取組もしていき、様々な形態の農業に挑戦していきます。

【稲刈り、活動の様子（8月）】

■取材を終えて

インタビューを通して、組織は、地元だけでなく移住者とも協力しながら、地元を守るために活動していると感じた。

不整形な田んぼを維持することは耕作しづらいため大変だが、移住者からすると好条件であるため、耕作放棄地を減少するには良い条件であると感じた。

また、農業を体験する場があることは移住者からしても心強く、地元の活性化に向けて良い体制であると感じた。これからも、地元を守るために発展していくであろう――。

組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
飛鳥本郷農業保全会	令和3年	約2ha（田） 約0.4ha（畑）	農地維持支払 資源向上支払（共同） 資源向上支払（長寿命化）

高めよう地域協働の力！ 多面的機能支払

取材：三重県熊野農林事務所　山口、西﨑、橋本、　熊野市役所　橋本
御浜町役場　楠、大谷（令和6年9月）
問い合わせ先：熊野農林事務所　農村基盤室 農村計画課
（0597-89-6128）